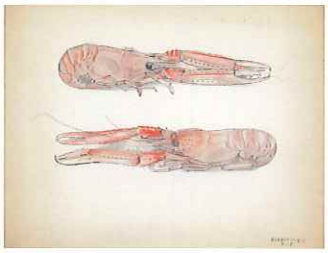
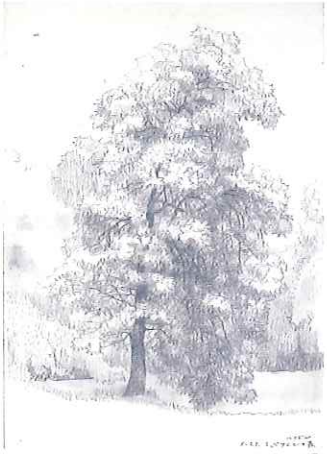
①

②

③



④



⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

山口華楊の滞欧素描 と 岩倉壽のエスキース 展

笠岡市立竹喬美術館では、師弟関係にある山口華楊(1899-1984)と岩倉壽(1936-　)の特別展を、2012年と2010年に開催しています。花鳥画・動物画家としての華楊、風景画・静物画家としての壽、それぞれの画業は京都画壇の伝統ともいえる、凝視の眼と新生面を拓かんとする進取の精神を基礎としています。そして、華楊は鋭敏な感性により、自然における生命のうごめき、その核心を捉えようとし、壽は親密な洞察によって、すべての存在の奥に潜むもの、宇宙の始原をつかみ取ろうとしています。

当館には、山口家から寄贈を受けた山口華楊の滞欧素描93点と、岩倉壽より寄贈を受けたエスキース39点があります。華楊は、昭和37(1962)年3月より7月までの間、ドイツ、オランダ、北欧三国、フランス、イギリス、スペイン、イタリア、スイスを訪れ、町並みや自然の景観、また博物館の所蔵品などを写生しています。細緻な鉛筆の線で描かれたこれらの素描は、花鳥を描いた大らかな描線とは異なり、対象を徹底的に写し取るという姿勢を示しています。日本の風景では感じない、西洋風景の中にある独特な空気を感じ取ろうとしたのです。大正時代に渡欧した小野竹喬の簡明な滞欧素描と比較して、より綿密で時間を要した素描といえます。

また壽は、身近な屋外風景や日常の室内に置かれた静物、そしてアトリエの窓越しに眼にした一コマを、日記に綴るかのように、集中した視線によって小画面に捉えています。必ずしも生命力の満ちた対象だけでなく、朽ちてゆくもの、滅びて行くもの、その明滅する生命を捉えようとしているかのようです。単なる素描とは異なり、本画と同等の実験的な試みがなされています。また、一つ一つの対象を確かな塊りとして立体的に画面に布置しており、彫刻家のエスキースを思わせるものでもあります。

このたびの企画は、華楊の滞欧素描と壽のエスキースを同時に並べることにより、京都画壇の中に継承される、自然を見つめる良質な眼を提起し、二人の資質の根源にあるものを見出そうとするものです。華楊、壽の25点ずつの作品と小野竹喬の作品50点とあわせて、それぞれの持ち味を発見していただければ幸いです。

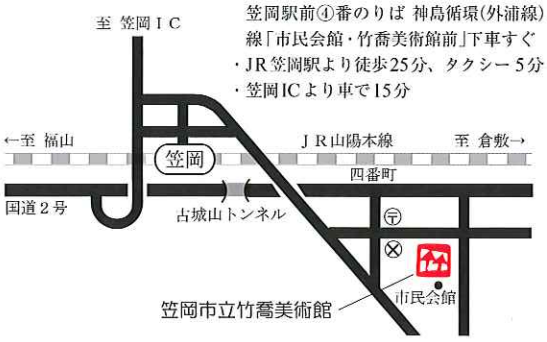
① 山口華楊　サクレクール附近　1962年
② 山口華楊　Tuileries　1962年
③ 山口華楊　コペンハーゲン　1962年
④ 山口華楊　BERGENにて買ふ　1962年
⑤ 山口華楊　シュベツヒンの森 ハイデル 1962年
⑥ 岩倉壽　映った窓　2011年
⑦ 岩倉壽　茅荷　2011年
⑧ 岩倉壽　二つの月　2011年
⑨ 岩倉壽　山上都市　2011年
⑩ 岩倉壽　花静物　2011年

●竹喬茶会(竹喬生誕祭)
11月15日(日)　10:00～16:00
お茶席券　400円(高校生以下は無料)
協力：笠岡茶道連盟

●ギャラリートーク(学芸員による)
11月8日(日)・11月22日(日)　13:30～14:30
聴講無料(ただし、入館料が必要)　申込不要

●今後の展覧会
特別展「生誕140年記念　上島鳳山と大阪の画家たち」
12月12日(土)～2016年2月7日(日)
特別陳列「竹喬と旅」
2016年2月13日(土)～3月27日(日)

・バスのご案内
笠岡駅前④番のりば 神島循環(外浦線)／乗時線／美の浜線「市民会館・竹喬美術館前」下車すぐ　所要5分・150円
・JR笠岡駅より徒歩25分、タクシー5分
・笠岡ICより車で15分



笠岡市立竹喬美術館 〒714-0087 岡山県笠岡市六番町1-17
TEL 0865-63-3967 FAX 0865-63-4496
http://www.city.kasaoka.okayama.jp/site/museum/